

見上げればプラネタリウム



(大井川にて)

7月28日〜31日。ピースクラブ10名（アカネ、大塚、瓶田、河野越子、恭子、聡、志穂、進一、弘子、西村）静岡県青部村へ。

約3時間、新幹線に乗り浜松に。それから30分かけ金谷駅へ。そしてまたドンコウに1時間乗り青部へ。金谷駅で次の列車の時間を駅員に訪ねると約1時間後で待つことに。

この大井川線には蒸気機関車がまだ走っていて、所々に鉄道マニアがカメラを持って待ち構えている。列車に乗っていると、勢いよく蒸気を吐きながらSしがすれ違ふ。ムービーメー

ルで録画し保存。青部に到着。駅を降りると、大きな山々と無数の茶畑。高い建物はほとんど無

く、民家が少し見えるぐらいで空のパノラマが広がっている。あとで聞いた話だが、その風景はどっかの大企業のコーポレートビルに使用され何年前かに放送された。さすがになかなかの景色だ。そこから、ほんの少し歩くとなにやら怪しげな分校が。看板は「青部センター」の文字。そこに約百名が寝泊りするらしく、教室の大ききの部屋が7部屋あり、そこに二、三十名が男女別に雑魚寝するという。もうすぐ8月、夏真っ盛り、冷房なしの部屋に二、三十とは……。

8月、甲子園へ行きました。プロ野球は小山、村山時代から阪神ファンですが、行ったのは夏の甲子園、八重山商工の応援です。▼高校野球は子供のころラジオやテレビでよく見聞きしていたのですが、このところ悪いところばかりが目立ち、あまり関心がありませんでした。▼ところが行った千葉経大付属との初戦は、逆転に次ぐ逆転で三塁側のスタンドも最高に盛り上がり、思わず最前列で、メガホンで金網をガンガン叩きながら応援していました。▼次の行った3回戦で、八重商は知弁和歌山に敗れましたが、勝敗は二の次、外国人からいくら「グロテスク」と言われようが、あの雰囲気はたまらんさあ！

ピースクラブ通信

No. 3

発行 社会福祉法人・ピースクラブ
住所 〒156-0014 大阪市浪速区大国一丁目11-1
連絡先 Tel & FAX 06-6647-2077
Eメール peaceclub@2.dion.ne.jp

ピーコラ

まずメンバー分けされ
行つて見ると昔使われて
いたであろう教室に畳がひ
かれてあり、大量の布団
がある。先に着いていた
関東組（東京、神奈川）
に挨拶。そこにもう十数
名いたが後から、子ども
軍団十数名が帰ってきて
走ったりなんやとやかま
しく、好きにあればまわ
る。そのころ瓶さんは、
おつちゃん部屋に決まっ
てソファでテレビを見
ているのだった。

風呂の時間となり、男
子みな風呂場へ、ピース
組も行ってみるが入れ
隙間がないぐらいものす
ごい人口密度であとでお
さまつてから入ることに。
ここで三泊とは、はやく
もホームシックかも。
夜飯は体育館でカレー
を食べた後、レクレーショ

ンで借り物競争や椅子取
りゲームなど皆参加し激
しく遊ぶ。
ふつと外に出て空を見
るとプラネタリウムな
みの星がひろがつていた。
あとから考えるとこの日
が一番はれて綺麗だった。
旧教室に帰り就寝。

いなかのせいかわ涼しく、快
適に眠りへ。初日を終え
る。

2日目はセンターの隣
にある大井川で遊ぶこと
に。川は梅雨時、雨の後
とあって水が増し、流れ
もはやいが、流され遊ぶ。
聡、瓶さんは日陰で見学
し、アカネはいつもどお
りハッピーな感じで川を
下り、志穂は浮き輪には
まつて何人かにと一緒に
遊び、怖がつていたが楽
しそだった。

夜は地元の人を招待す

る盆踊り大会。夜店も出
し、なかなかの賑わいで
2日目を終える。

3日目、水もだいぶ引
き、川で用意した川魚を
掴み取り、川沿いに班ご
とに自然の釜を作りパー
ベキュー。ビールがうま
く、すぐなくなつた。

夜はキャンプファイヤー
の予定だが曇り空。火を
つける時になって雨が降
り出すが、強行。頑張る
青部実行委員会。

雨は強くなるが火は最
後まで消えず、皆びしょ
びしょで行い、ファイナ
レを迎えたのだった（こ
のせいか大阪に帰ったら
カゼ引き人続出）。
最終日、金谷駅で皆と
お別れ。向こうのホーム
でちびっ子のバイバイと
蟬の音がひびく。

終わってみると三泊四

日、ハードだがなかなか
無い経験をしたと思う。
最初は圧倒されたあの人数も、初対面やのに叩いたりひっぱつたりしてきたちびっ子軍団も、始めて会った障害者も、終いにはなんとなく慣れたん

北海道旅行記

9月9日、共同連全国
大会に参加するために、
空路で北海道に行きまし
た。

いつもは大勢で参加す
る共同連ですが、今回は
こじんまりと、かじさん
と春さん、コサリの幸雄
君の4人での参加となり
ました。行くときは飛行
機の関係で春さんだけあ
との便で追いかける形で
した。

先の3人は、新千歳空

かマヒしたんか、気にな
らん様になつてたような。
あの場所とシユチュレ
シヨンは夏休み像を絵日
記に描いたらあんな感じ
なんかなくとも思ふ帰りの電車だった。

（報告・西村 猛）

佐伯 利也

港からJRと地下鉄を乗
り継いで会場の札幌サン
プラザへ向かいました。
大会は1時からでしたが、
僕たちが会場の着いたの
は5時頃で、もう「地域
の中から共に働く場を支
える制度を作る」と題し
たシンポジウムが行わ
れていました。その後の
交流会では、熊本の倉田
さんが、僕たちのテーブ
ルにプロデューサーの神
吉さんと共に3月の映画

の上映会のお札に来てくれました。

交流会も終わろうとする8時過ぎ、春さんがようやく会場に到着。共同連の交流会はいつも食べ物があったという間になくなるので、かじさんが春さんの分を少し取っておいたのですが、春さんのお腹には物足りず、僕と春さんは一旦ホテルに行ってから、飲みに出ました。

すすきのの街をぶらつき食べ物はどこも美味しそうでしたが、2人はビールにこだわり、入ろうとするとこ、するとこが生ビールがサントリーだったので、なかなか入る店が決まらず、結局、寿司屋さんに入り、アサヒの瓶ビールで乾杯しました。

2日目は5つの分科会があり、僕は第3の「自立支

援法を考える生活分科会」に参加しました。その分科会では、今、行われている認定調査や自立支援法の問題点を話し合いました。

共同連大会が終わり、僕たちはあと2泊し、北海道を楽しむことにしていました。ただ、レンタカーには僕の電動車いすが乗らないので、僕だけほかの参加者と空港に戻り、空港の一時預かりに電動を預け、再びJRで札幌に引き返しました。電動を預けて、そこから歩いてJRの駅まで行くのにどれくらいかかるかなあ、と思っていたら、一時預かりの店員さんが駅まで送ってくださいだったので、とても助かりました。

2日目の夜、居酒屋に行くとスポニチの記者と遭遇しました。話を聞くと、ゴルフの宮里藍ちゃんの番記

者でした。札幌でゴルフの大会があったらしく、その記者と野球の話をして楽しいひと時を過ごしました。翌日は朝9時にホテルを出て、浦河町の「べてるの家」へと出発しました。

松本健次さんの死刑を止めさせるために「障害者・水俣病・えん罪・死刑・えん罪NO! ネットワーク関西第1回集会」

9月23日(土)午後2時より、「えん罪NO! ネットワーク関西」第1回集会は石橋義之さんの司会で始まった。

まず挨拶に立った小林敏昭さんが、長年「野田事件」

に関わってこられた経験から、近く導入される裁判員制度の下では、裁判の迅速

いしました。それからべてるの会が経営する「ブラブラザ」の商品の説明があり、いろいろ買い物をして、その日は何故か宿泊先が150キロ以上離れた十勝だったので、ブラブラザの近くの焼き肉屋で腹ごしらえをして、十勝に向かいました。風呂に入ってから最後の

夜は、ホテルの居酒屋へ。初めて4人で夜を楽しみ、幸雄君もごきげんでした。最終日は空港に向かう途中、春さんがスピード違反で止められるハプニングも起きましたが、今回のメンバーの旅は、きつと楽しい思い出として残るでしょう。

化がより求められ、えん罪もまた増えるのではないかと懸念が示され、これまでのように「組織」ではなく「個人」がゆるやかにつながる運動をと、この集会の趣旨を述べられた。

それから、野田事件は「青山正さんを救済する関西市民の会」の粟津さん、

「恵庭冤罪事件を見つづける会」は石橋さんが、また「東住吉冤罪事件を支援する会」の藤澤和彦さんから、それぞれ、事件の内容と現状の報告があった。

えん罪としては「甲山事件」は知っているが、右の2件のこととは初めて聞いた。「恵庭事件」は最近のこと

でもあり、報道のされ方も大きかったので覚えていても、えん罪の可能性については記憶が定かではない。「和歌山カレー事件」に見られるように、疑わしきは「黒」というマスコミの影響は、自分の中でも大きいと言える。だが、これら人の知ることのないえん罪事件に、これほど多くの方々（当日の参加11名）が関わりつつけていることに、驚きと共に、頼もしさも感じた。

次にその日のメインである金井塚康弘弁護士（松本健次さん弁護士）のお話と質疑応答があった。

「松本健次さん事件」は、水俣病の被害者で、知的なハンディのある兄弟が1990年にいとこを殺害、財産を奪い、91年には姉の知人を殺害。事件が発覚して兄は自殺し、その罪すべてが弟の健次さんにかぶせられたもの。93年に大津地裁で死刑の判決を受け、上告したが、2000年に最高裁で上告が棄却された。その後、恩赦を願っているが、刑が執行されるかもしれないアブナイ時期と言われる。

金井塚弁護士のお話は、門外漢の私には詳しい報告は出来そうにない。ただ、何の落ち度をない者を殺害するという表現がよく使われるが、反対に落ち度による殺人が許されるはずがないのと同じように、残酷でない死刑などあり得ない。これを残酷な刑罰でないとすることこそ憲法違反であり、死刑が、国家の名の下に行われる殺人だという思いを強くしながら聞いていた。

また、松本さんは幼いころから、兄に暴力を含めた虐待を受け、被支配的立場にあったという。「野田事件」の青山さんにも軽くない知的ハンディがあり、そこに付け込まれてえん罪を押し付けられた。これは当局によるひとつの犯罪である。それに至らないまでも「障害者と健常者のあいだには身近にもそういう問題が一杯起こっている」と、ピースクラブ有志の大西さんからも発言があった。

その後、金井塚弁護士への質問と応答の時を持ち、司会者から、会費も規約もない会なので、ぜひ一人でも多くのご参加を、と呼びかけがあり、1階のキジムナ1での交流会に移った。

(報告・中村)

【10月のスケジュール】

- 10月3日(火)～15日(日) 「盗作展」 京都・SELF-SOアートギャラリー
- 10月15日(日) 丹波ハッピー農園収穫祭(稲刈り)
- 同日 14:00 ホンヨンウン追悼コンサート リバティ大ホール
- 10月21日(土) 18:30 文鹿の勸進帳 大阪難波ワッハホール
(河内仁○加一夏祭りに参加一が出演)
- 10月23日(月) 13:00～16:00 「共に働く場を支える制度を作りをめざして」
- 10月28日(土)～29日 地域市民フォーラムなら・出会いウィーク2006」に出展します
奈良東大寺・南大門ヨコ

《ピースクラブの仕事》

この半年間、次々制度が変わる中で、日常を維持することに重点を置いてきた。カムフラージュの仕事というか、やらせの仕事。月に千円にもならないような仕事からは、何も生まれない。私らの本当の仕事は愛の仕事しかない。希薄な人間関係の中で、本当に大切なものを見極める、今が大切な時や。

大西 洋子